

研究指導の概要

■ 博士（看護学）

【医学系研究科看護学専攻博士後期課程】

学年	学期	研究内容及び指導方法等
1年次	春 (秋)	◆ オリエンテーション 課程開始のための必要な手続きや説明を行う。 ◆ 研究指導計画の決定 修了要件確認、履修科目の決定 研究指導計画書を作成し、1年間の授業及び研究指導計画を決定する。 ◆ 講義履修・受講 高齢社会看護学特論 行動規範教育としてe-ラーニングシステム（APRIN）を利用し21単元を履修（博士前期課程にて受講済みの場合は省略） ◆ フィールド実習 高齢化社会のニーズに対応するために、医療・介護の人材を看護の立場で学際性を抱合しつつ育成する。修士で獲得した知識、技術、研究的視点を将来へのヴィジョンをもって変化・発展させるためのカリキュラム構築をめざす。 6月末日（9月修了予定者は12月末日）までに、実習目的、実習フィールド、実習時期を明記した実習計画表を作成し、指導教員に提出する。
	秋 (春)	◆ 研究計画書の仮登録 12月末日（9月修了予定者は5月末日）まで研究計画書を提出する。 ◆ 博士論文研究計画中間発表会 1月下旬（9月修了予定者は7月第1週）に開催 本課程の学位授与方針に照らし、博士論文の審査基準を満たすことを前提に、論文が精選されるような視点から質疑や助言・指導を受ける。 中間発表会終了後、各教員から受けたコメントに対する回答と研究計画書をもとに、指導教員のほか、2名以上の教員の指導を受ける。さらに修正が必要な場合には2名以上の教員から指導を受けた結果に対する回答書と最終的な研究計画書を添えて、指導を受けた教員に提出し確認してもらう。指導教員はその指導に関する報告書を原則として倫理審査申請前に看護学専攻部会に報告する。 ◆ 講義履修・受講 安全管理支援看護学研究方法演習又は生涯生活支援看護学研究方法演習 ◆ フィールド実習 実習計画表に基づき、実習を受講する。実習終了後、1月末日（9月修了予定者は7月末日）までに、統合的到達目標レポートおよび施設ごとの実習終了報告書を作成する。

研究指導の概要

■ 博士（看護学）

【医学系研究科看護学専攻博士後期課程】

学年	学期	研究内容及び指導方法等
2年次	春 (秋)	◆ オリエンテーション 1年間の研究指導計画を指導教員と確認する。 ◆ 研究の実施 指導教員の下で論文の中核部分につき調査・執筆、中間論文の作成、諸文献・裁判例等の調査・分析を行う。必要な場合は前年次の研究計画の修正を行う。 人を対象にした看護研究を行う場合には、研究を実施する前に、研究計画について学内の研究倫理委員会による審査を必ず受け、承認が得られてから研究を実施する。
	秋 (春)	◆ 論文の作成 前学期までに得られた研究成果に基づいて、研究の取りまとめを意識し、指導教員の下、研究を実施する。 最新の専門知識の修得および研究動向の理解し、研究の修正や改善を行う。研究成果を深く解釈し、自身の博士研究の学術的意義を明確にする。 博士論文の構成をより具体化し、論文執筆を進めて行く。
3年次	春 (秋)	◆ オリエンテーション 1年間の研究指導計画を指導教員と確認する。研究体制を確立する。 指導教員の指導の下で、研究を進め、論文草稿の執筆の後、提出論文を完成させる。
	秋 (春)	◆ 論文の提出 10月中旬（9月修了者にとっては5月中旬）に学位論文審査願、学位論文、学位論文要旨を提出する。 提出された学位論文について、剽窃チェックを実施し、主査が確認ののち報告書を提出する。 ◆ 学位論文審査会 学位論文の審査は、大学院担当教員の中から主査1名、副査2名以上により行う。 学生が自身の研究内容を個別に口頭で発表する。 学生が自身の研究について審査を受けたのち、研究室の指導教員等は学生が審査委員からの指摘に適切に回答して論文を修正し、合格に足る博士論文を作成できるように指導を行う。 ◆ 最終試験 学位論文の審査終了後、最終試験（3月修了者は1月実施、9月修了者は8月実施）を行う。 申請者に論文概要の説明を求め、それに対する出席者による質疑応答と口答試問による最終試験を実施し、最終試験の可否および学位の取得について、大学院委員会および研究科委員会で意見の聴取を行う。 ◆ 学位論文の公表 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に学位論文（最終版）あるいは学位論文（最終版）を主たる内容とする論文（提出者が筆頭著者）を公表しなければならない。ただし、学位の授与を受ける前に公表しているときはその必要はない。